

連合大学院共同プロジェクト研究資料

2012.8.12

兵庫教育大学連合サテライト

# 学習者の内面の表出を図る社会科授業 のPDCAサイクルの実証研究

柴山秀範教諭「くらしを守る人々ー堀川の安全ー」

大阪教育大学 峯 明秀

1 実践者は**日常の教育活動**の中で、**具体的に**何を、どのように見取り、授業を開発・改善するのか。

2 実践者は自らの授業観による授業開発・改善の限界と課題とを把握し、**他の授業観をも俯瞰し拡張した**新たな授業開発・改善を図るには、どのような**要素**が必要とされるのか。

## 研究方法 ①対象：富山市立堀川小学校

子どもから出発する授業や授業研究を長年におたり継続している。2012年で83回教育実践研究発表会・研究主題「個と社会形成」4年目 21学級の各担任が2日間に渡り、授業公開

筆者は、2009年度の発表会から毎年参加し、授業者がどのように授業を計画し実践しているのかについて、堀川小の研究や柴山氏の実践を観察してきている。とくに、学校の組織・集団の特質と個としての教師の独自性を意識しつつ、授業者に寄り添いつつ、時々意見を述べ、人間関係を作りながら、資料を提供していただいている。

## ②方法及び手順

ア 社会科の授業をどのように考え実践しているのかについて、学習指導案や資料、授業VTR(発話記録の作成)、インタビューによって記録・整理する。

イ 授業の特質について、整理した内容や関連する文献などから筆者が解釈する。

先行研究の成果を参考にして**授業の解釈**を行う。

ウ ア・イの内容について、**実践者及び第3者に提示**し、批判的検討を行う。

**解釈の妥当性**を高める、**実践者の振り返りのアクション**となる。

エ ア～ウを繰り返し、何がどのように変化してきているのかを、実践者へのインタビューと観察によって抽出する。(評価・改善)

第二次 交通の安全を守る活動に従事しておられる人々の  
思いや願いに触れ、その実現に向けた交通の安全を守る  
ための体制や仕組みなどへの理解を深める。……5時間

聞き取り調査や見学を重ね、…安全を守る活動に従事  
しておられる方々の人柄に触れ、**喜び**を感じるだろう。  
子どもは、**ありがたさ**を実感していくと考える。

交通の安全を守る活動に従事しておられる様々な立場  
の方々を**比較したり、関連付けたり**しながら、それぞれ  
が連携を取っていることにも気づいていく。

子どもたちは、これまで別々の組織や機関だと思っていた  
ことが、法やきまりによって「交通の安全を守るため  
の体制」としてつながり、連携し合って安全を守っている  
ことを理解するとともに、**関係機関や人同士のつながり**  
等をより一層明らかにしていこうとするであろう。

## 柴山秀範教諭

研究分野：社会 教職経験 年，現任校8年

「くらしを守る人々－堀川の交通安全－」

ア 単元の全体計画(10時間)

イ 公開授業(第二次)の計画

6月1日1・2限，2日1限の3時間

前時は，牧野「7警察署はいらない，交番を多くつくった方がよい」という流れで終わった。6

月2日1限は，**第一発言者**を西村にした。交番を点在させることに賛同する意見が続いた。

6月2日1限

2限7牧野：警察署はいらない

地域のパトロール隊もある

1 西村 交番を散りばめて建てた方が、便利

51保田 交番を多く作った方がよい

69桜井 事故が起こりやすい場所に

99藤野 警察署はいる警察署にしかできない仕事だって、たぶんある

調べたい

115岡田

調べてから言って欲しい

それに対し、99藤野「警察署にしかできない仕事だって、たぶんある」という発言が出された。115岡田「警察署を建てたのは、何か理由が絶対あるはずだから、…調べてから、警察署はいらないとか言ってほしい。」が出され、141西村が「確実に聞いていきたい」思いをもつ。

先生方は、VTRを見て、どのような感想・意見を持たれたでしょうか。





## 柴山教諭の振り返り

○今日からやっぱり自分のくらしをもとにして、もう一回歩みを膨らませていくような時間にしたと思って、

○西村君にはそういう可能性がある

○昨日の反省で現実味というか切実感がない。やはり本当の子どもが経験したこととか、その子しかいえない出来事っていうものが何とか引き出そうと思って聞いてみた

○追究をしっかりと支えきれていなかった、太らせていなかった

## 東部教育事務所:広田積芳 指導主事

- 具体的に授業記録を読んで, 子どもの主張を受け止めて, 個の関係をつくっていく, そこに学び合いといものが生まれる
- 社会科を通して生き方, 生き方も学んでいます, 生き方を高めている。
- 自分の見方考え方, 考え進め方, 追究の仕方も見直す。そしてそれが共有化されれば, 柴山級自体の文化風土:  
学び合う創造的雰囲気も高まる。

# 表 トランスクリプトで用いられる記号

= 二人の話し手の発話が途切れなく密着していることや、一つの発話の中で話と話が途切れていないことは、等号で示される。

(.) 0.2秒に満たない短い間合いは丸括弧内にピリオドを打った記号で示される。

## 発話の表現上の特徴

— 強調された語はアンダーラインで示される。

:: 音が引き延ばされていることがコロンで示される。コロンの数が多いほど長く引き延ばされている。

↑ ↓ 音調の上がり下がりはそれぞれ上向き矢印と下向き矢印で示される。

語 大きく発話された語は太字で示される。

語h語 笑いながら話すときのように語のながに呼気が含まれる場合、語のなかにhを入れることで示される。

(( )) 注記は二重丸括弧内に示される。



鈴木聡志『会話分析』

情意面；市民的資質の形成の段階

会話分析，エスノメソドロジ，  
相互行為における解釈の妥当性

15

## 子どもたちの様子

- 子ども一人一人が友だちの発言を、しっかり傾聴する態度，受け止める。寛容
- 自分自身で考えた発言ができ，書ける。
- 自らの課題をもっている。日々の生活
- 地域や大人に敬意を払う。

民主主義

**教師** 個としての子どもを尊重，丁寧な言葉遣い，目線，待ちの姿勢，言葉をつなげる，考えの分布を把握している。展開はゆっくり